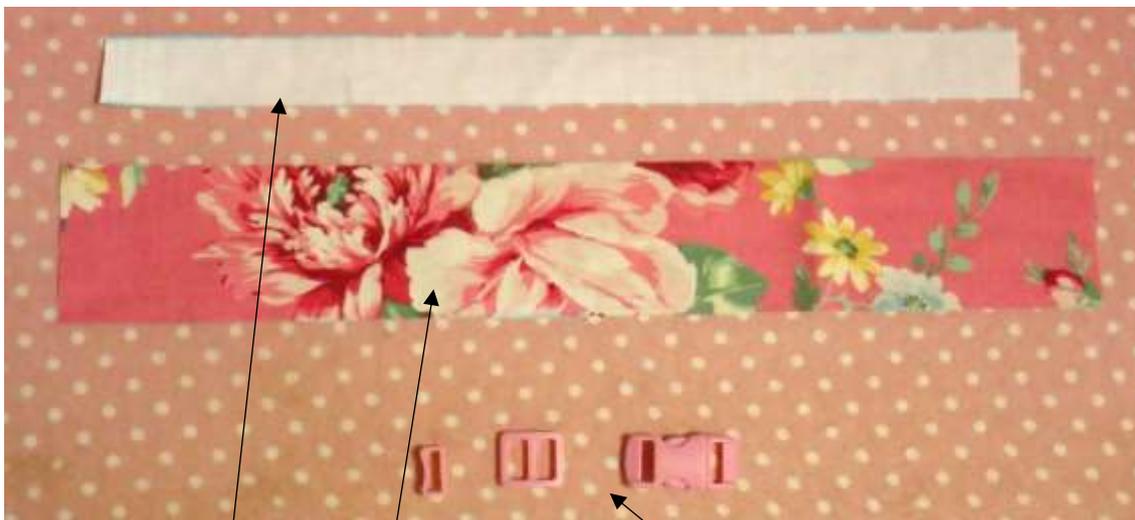


【猫首輪の作り方】群馬県動物愛護センター

①材料を用意する



一番上の白い布**芯地**と中央の**柄布**、一番下の**バックルセット**を用意します。

■**芯地**：長さ **25cm**、幅 **2cm**。幅はぎりぎり **2cm** で、これより太くならないようにします。安くて硬めの白無地のシーチングを利用します。

■**柄布**：長さ **28cm**、幅 **4cm**。子猫用はこれくらいの長さがいいですが、大人の猫用に作る場合は、もう少し長く作っても良いでしょう。**32~34cm** くらいにします。**綿か麻、綿麻**のものが、アイロンでの折り目が付けやすく、作りやすいです。着物のほぎれ等も可愛く仕上がりますが、シルク製でアイロンの折り目が付きにくいので、縫う時には慎重に縫い進める必要があります。

画像の布は大きめの柄の布ですが、小さい柄の方ができあがりは可愛くなりやすいです。パッチワーク用の**小花柄のカットクロス**等がベストです。

ローンやボイル等のごく薄い布を**柄布**に用いる場合は**芯地**を 2 枚仕込みます。ブロードやシーチングは 1 枚で OK。オックスや綿麻等の厚地なら、芯地はなくても OK です。布の種類がよく分からなければ、**細かめの柄のカットクロス**を使って、**芯地を 1 枚**使えば大丈夫です。

■**バックルセット**：手芸店等で購入するか、ペットショップや 100 円ショップ等で売っている猫首輪をばらして利用します。**今まで使っていた首輪がボロボロになったら、布の部分だけ作り変える**のも良いでしょう。**紐幅約 1cm** 用のものを使います。

100 円ショップの小型犬用ハーネスは 2 セットとれるのでお得ですが、セーフティバックル（一定以上の荷重により外れるバックル）になっていないため、首吊りの危険性があります。猫用の首輪をばらした方が良いでしょう。

ここでは市販の首輪をばらして得たバックルを使用しましたが、もちろん専用のバックルを購入して使用しても、素敵な首輪が作れます。



↑猫の形のセーフティバックルを使用した例。適度に外れにくく、自力で首輪を外そうとする猫ちゃんにも有効です。



↑布を裁断する時は、水で消えるチャコペンと、方眼がついている透明な定規があると便利です。ロータリーカッターをお持ちの方は、使うと作業がよりスムーズになります。

②アイロンで折り目を付ける



芯地、柄布共に半分に折り、アイロン（高温）でしっかりと折り目を付けます。
手で折るだけでは綺麗に作れません。面倒くさがらず、必ずアイロンを使いましょう。



まず、1回折れました。芯地の方はこれで準備完了です。

③柄布に、更にアイロンで折り目をつける。



先ほどつけた中央の折り目まで、端を折り込んで、またアイロンで折り目を付けます。中央の折り目まで、あまりぴったりに合わせなくても大丈夫です。



反対側の端も、同じように中央の折り目まで折り込んで、アイロンで押さえます。



元々2cm幅と4cm幅だった布が、約1cm幅に折れました。

④芯地を柄布の中に仕込む



柄布の中に芯地を入れ、中央の折り目を合わせます。



柄布の折り込んである部分で包むようなイメージです。芯地の方が少し短いので、両端だけ芯地が無い状態になるように、位置を調整します。

⑤裏表を決定



裏表をどちらにするか、柄の出かたを見て決めます。今回の場合、下側の画像の面の方が黄色の花が出ていて可愛いかな、と思うので、こちらを表とします。

⑥縫って紐状にする



表と決めた方を上にして、開いている方を手前に置きます。その状態で、右上にあたる部分の2mmほど内側に針を刺して、縫い始めます。縫い目の大きさは、この狭い幅を縫う時は1.4mm程度の、小さい縫い目が良いです。今回は白い糸ですが、色糸や金糸を使っても綺麗です。金糸は通常の糸よりも高価なので、上糸だけ変えればリーズナブルに済みます。



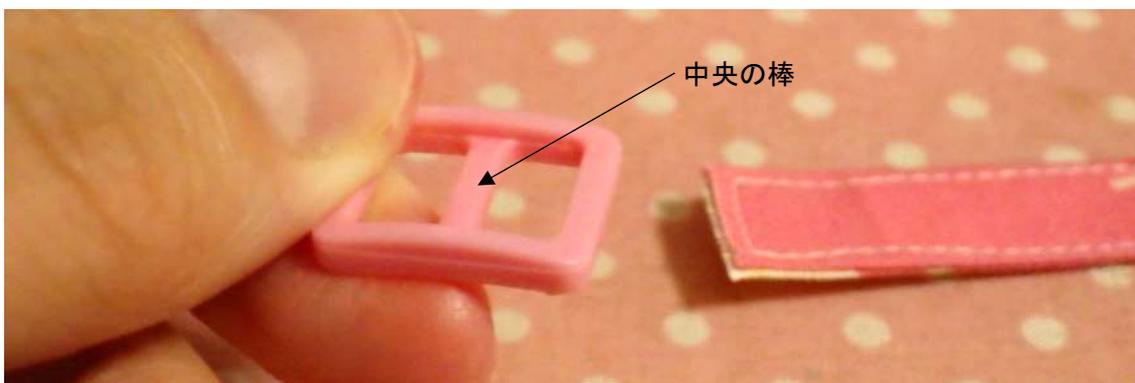
角まで来たら一度押さえを上げて、布を回します。開いている方を縫い進めます。長辺を縫う時は2mm程度の大きめの縫い目にするとうまいです。あまり縫い目を大きくしすぎると強度が心配なので、2mm程度が良いでしょう。

角まで来たらまた同様に布を回して縫い目の大きさを調整しながら、ぐるりと一週縫います。縫い始めた辺まで来たら2回くらい返し縫いして、縫い終わります。

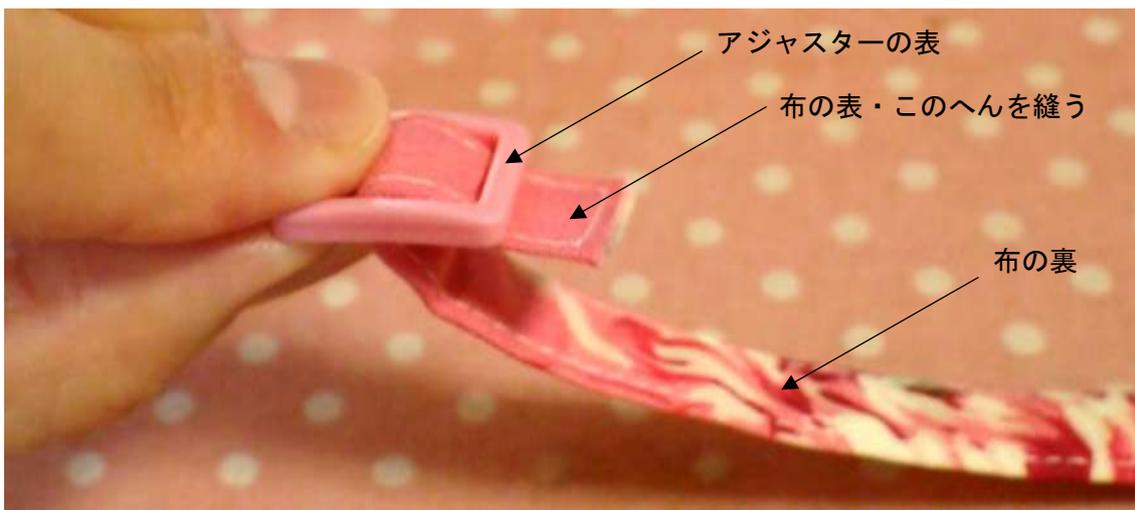
⑦アジャスターを付ける



黄色の花が出ている部分つまり紐の右半分が表に出てくるようにしたいと思います。その場合、アジャスター（一番左に置いてあるパーツ）を左端に付けます。

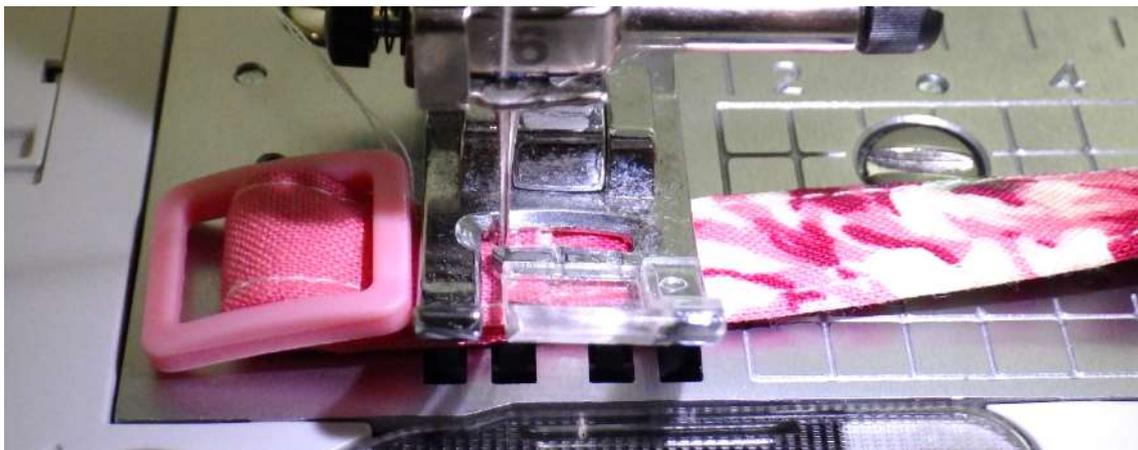


パーツには裏表があります。アジャスターは、中央の棒が少し下がっている方が表です。
←のように、少し形が違うものも売っていますが、その場合も、中央の棒が下がっている方が表です。

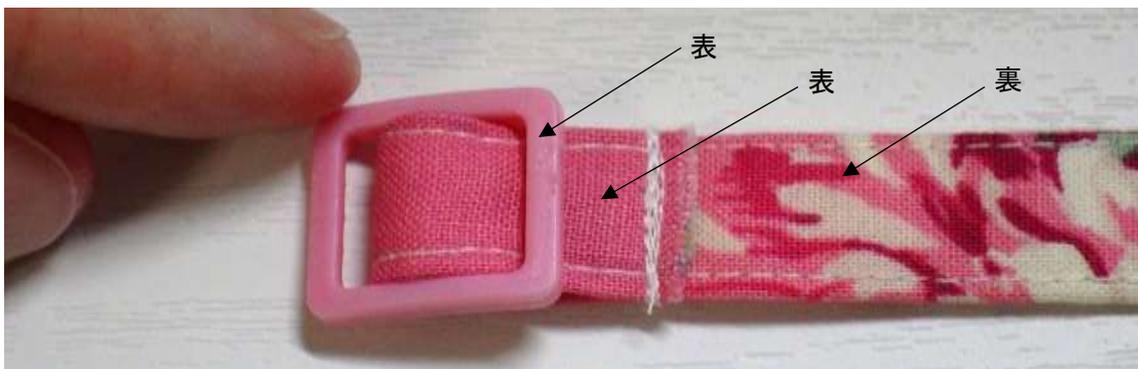


上の図のように、アジャスターに紐を通します。

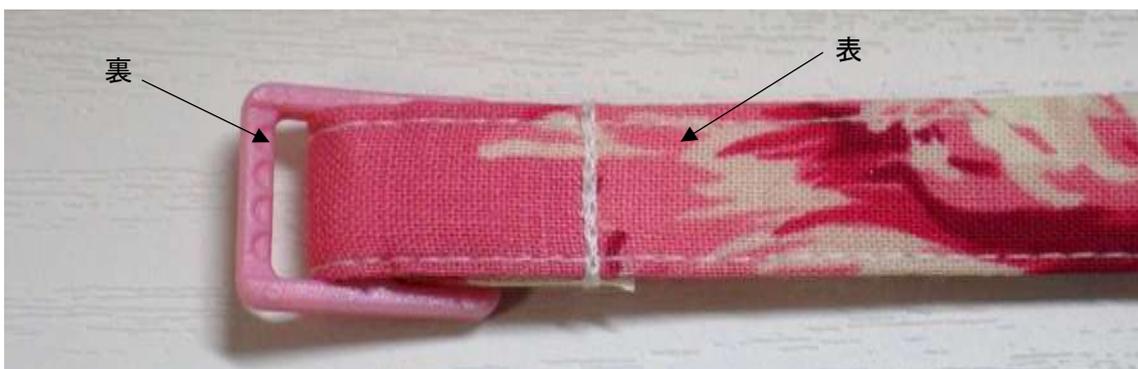
「布の表・このへんを縫う」と書いてあるあたりを、ミシンで縫い止めます。



アジャスターの上に押さえが乗らないぎりぎりに、位置を調整し、縫います。縫い目の大きさは1.8mm程度がいいです。5~6回、縫っては返し縫い、縫っては返し縫いを繰り返して、しっかりと縫い付けます。



縫えました。

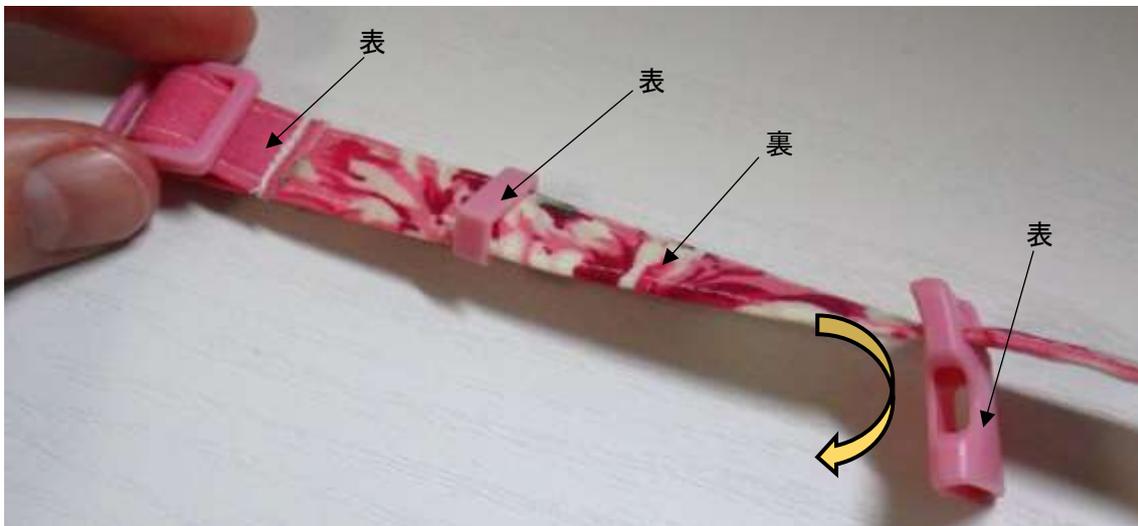


反対側はこのようになっています。

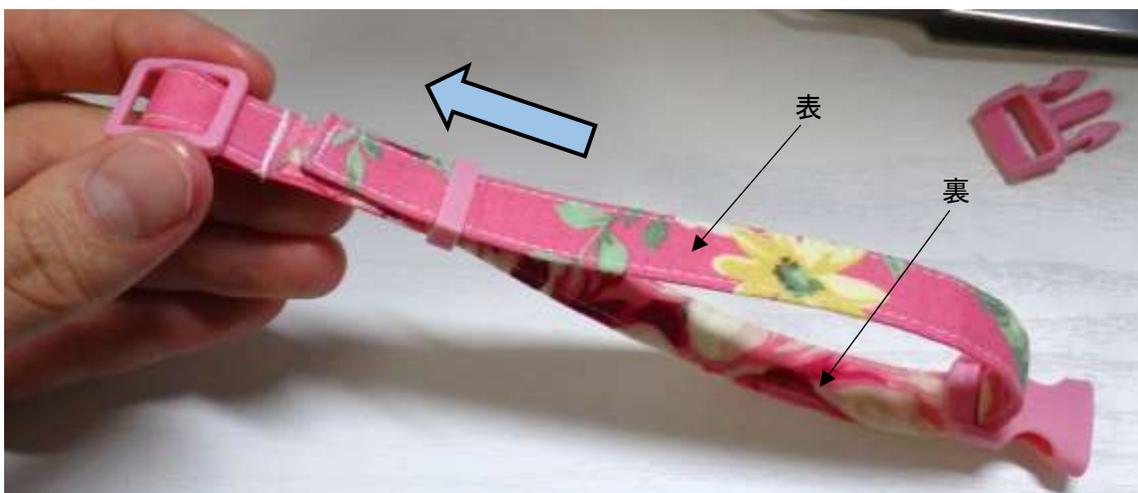
⑧押さえリングとバックルを付ける。



上記の向きに首輪を置き、押さえリングを通します。押さえリングは凹んでいない方が表です。裏表が無いものもあるので、その場合はどちらでも大丈夫です。



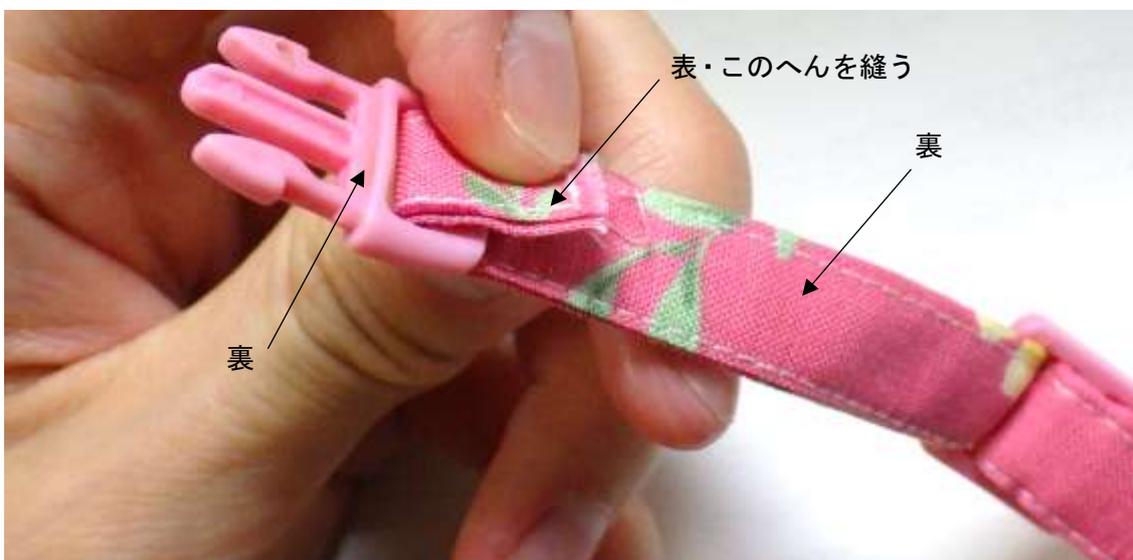
バックルのオスかメスに紐を通します。上の写真ではメスに通しています。バックルにも裏表があります。カーブして凹んでいる方が裏側になり、首にフィットします。



折り返して、押さえリングとアジャスターに通します。黄色い花柄が出てきました。



通しました。最後、端にバックルのオスパーツを縫い付けます。



アジャスターを縫い付けた時と同様に、返し縫いを繰り返しながら、ミシンでしっかりと縫い付けます。



縫えました。



表側はこうなります。表側に出る糸は下糸になるので、色を変えたい場合は下糸の色を変えましょう。鈴を付ける場合は、★あたりに手縫いで縫い付けます。この部分ならアジャスターをスライドさせても干渉しません。

⑨できあがり



芯地を仕込むことでしっかりとした首輪ができました。薄すぎる布だと、アジャスターの滑りが良すぎて、使っているうちに勝手に緩むので、猫がかじってしまいます。

このままでもいいですが、できあがってから一度水通しすると、生地がしまつて更に滑りにくくなります。



世界に一つの首輪を付けてあげれば、もしもの時の目印としてはとても有効です。
更に、飼い主の名前と電話番号が書かれた**迷子札**を付けることもお忘れなく！



成長するにつれて、猫ちゃんの首はだんだん太くなっていきます。**首が絞まって苦しくなっ
ていないか定期的に確認**し、こまめに調節してあげましょう！